

南信州広域連合第4回広域連合会議 結果報告

日時：令和8年7月16日(木) 15:00～15:55

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長管理者

〔JR東海中央新幹線長野工事事務所〕小池所長

〔長野県建設部リニア整備推進局〕平林局長

〔飯田市産業経済部〕浅野参事

〔南信州地域振興局〕大日方局長

〔飯田建設事務所〕折井所長

〔飯田保健福祉事務所〕岩本所長

〔下伊那郡町村会事務局〕岡庭局長

〔飯田広域消防〕下平消防長、熊谷消防次長兼総務課長、中本消防次長兼警防課長

〔環境センター〕関島事務長

〔事務局〕吉川事務局長・滝沢事務局次長兼総務課長

乾地域医療福祉連携課長兼医療福祉連携係長・金田広域振興係長

渡邊広域振興係企画調整担当専門主査

熊谷補佐兼庶務係長・幾島庶務係主事

1 開会…15時00分

2 広域連合長挨拶

昨日の午前中に東京で会議があり、すごく暑いと思い帰ってきたら、夜のニュースで飯田市南信濃が38.1℃で全国1位の暑さだった。暑さをしっかり乗り越えていけるようにしたいと思う。7月3日に鈴木静岡県知事が、リニア中央新幹線の静岡工区について、県議会全員協議会で容認する趣旨の発言を行ったことが大きく報道された。これまで静岡工区の着工が見えていなかった中で、大きく一步前進したということだと思う。報道によれば年内にも着工すると言われており、JR東海は静岡工区が着工すればしかるべき時期に開業時期について明らかにしている。一日でも早く開業時期を明らかにして欲しいと思っている。開業時期が明らかになれば、それが10年先であってもそこに向けて具体的なスケジュールが組めるため、これまでとは違うフェーズに入ってくるというふうに思う。開業時期が明らかになったことを受けて、しっかりまちづくりに取り組んでいけるようにしたい。

3 協議報告事項

(1) リニア中央新幹線について

【県リニア整備推進局平林局長】

【南信州地域振興局高根副局長】～資料No.1～

中川村において6月16日にリニア対策協議会を実施。松川町においてリニア中央新幹線建設工事対策委員会を実施。6月20日、25日、26日に「中央新幹線、風越山トンネル（黒田工区）」進捗及び今後の見通しに関する説明を実施。阿智村において6月25日にリニア対策委員会を実施。また、6月29日に長野県政出前講座を飯田コアカレッジで実施した。今回の出前講座には、学生38名が参加し、クイズなどを交えた説明、ワークショップでの意見交換を行い、学生からは都市部とのつながりが増えることへの期待の意見が多く聞かれた。今

回の出前講座は、年明けにコアカレッジで予定されている飯田市リニア推進部の講座と連携したものになる予定。また、6月の補正予算で計上していたリニア駅から県内各地への人流を目的別に分析する関係予算が県議会で承認を得られた。今後、県としてこの分析を実施していくとともに、リニアバレー構想の実現に向けてデータに基づいた取組を進めていく。分析した資料については市町村にも提供し、施策の検討にも使うことを想定している。

今後の予定としては、リニア中央新幹線建設促進長野県協議会総会、知事とJR東海社長とのトップ会談が実施される予定となっている。

【JR東海中央新幹線長野工事事務所小池所長】～当日配布資料～

飯田市において、6月20日、25日、26日に黒田工区進捗及び今後の見通しに関する説明会を丸山地区、羽場地区、東野地区で実施し、今後の工事工程の見通しと工事用車両の運行計画などについて説明を行った。

阿智村において、6月25日にリニア対策委員会を実施し、萩の平工区の掘削状況と坊主ヶ島の詳細計画について了承を得た。6月26日の阿智村議会のリニア特別委員会で発生土受け入れの了承をいただき、同日阿智村から受け入れの表明があった。

松川町において、6月17日にリニア対策委員会を実施し、道路の新設事業や土地改良事業における工事の状況などを説明した。

その他に、6月29日から7月5日にかけて「教えて！リニアのリアル」第19弾が放送され、全線で初めて県境を突破した中央アルプストンネル山口工区と、5月に阿智村の萩の平工区でのトンネル工事の掘削初日、また安全祈願祭の様子を紹介。7月11日、風越山トンネル黒田の工事現場に飯田下伊那の子どもたち8人を招待し、ヤード内での工事現場の見学やグループワークなどを通してリニア中央新幹線への理解を深め、鉄道に興味を持っている子供たち同士の交流を深める機会とした。

(主な意見等)

高森町長：県の分析の方法についてももう少し詳しく教えていただきたい。まだリニア中央新幹線が通っておらず、二次交通がどういうものになるのかということが確立していない状態で、人流データの調査分析を行おうとする場合は、現状はこうなっているということの分析は当然できると思うが、リニア中央新幹線が通った後には、どのように二次交通のようなものの仮説を立てて取り組んでいくのか。また、図を見ると矢印が松本市で止まっているが、長野市などには行かなくて良いのかというところを教えていただきたい。

平林局長：何段階かのシミュレーションを考えている。まずは現状からの分析を行う。現状は南信州へ車、バス、飯田線で訪れる人がいるが、そういった層がリニア中央新幹線へ交通手段を変更することは考えられる。また東京や名古屋との時間的な距離が短くなることのプラスの需要で南信州或いは長野県を訪れる人が増えることに対して一定の仮説を立ててシミュレーションを行う。その後、一旦は現在の状況でシミュレーションを行うが、二次交通や観光の周遊メニューなどの施策がある程度具体化したら、プラスの要因についてシミュレーションを行う。リニア中央新幹線の開通がどのくらいの時期になるか不明だが、順を追ってシミュレーションもアップデートし、施策のアップデートにも取り組んでいきたい。このシミュレーションでは、長野県内の市町村すべてを行き先として想定しようと考えている。図は松本市までで示しているが、例えば長野市への需要があるのならば、それはシミュレーションをする予定。

高森町長：リニア中央新幹線を使わずに長野県内に入ってくる人たちのシミュレーションをした場合、松本市や

長野市を訪れる人はいるかもしれないが、南信州を訪れる人は圧倒的に少なくなっていく。例えば長野新幹線で訪れた人たちが南北に長野県を縦断したいと思うのかといったようなシミュレーションなども行うのか。

平林局長：例えば長野市から飯田市のリニア中央新幹線長野県駅（仮称）を使って外に出る人がいれば、そのこともシミュレーションを行う。逆の動きについてもシミュレーションするつもりでいる。山梨県駅や岐阜県駅も一緒に取り組もうと思っている。例えば諏訪地域の人の山梨県駅との関係や木曽地域の人の岐阜県駅との関係も一旦シミュレーションをしたいと考えている。

高森町長：様々なものの施策を作るのに、とても重要なものになってくると思うのでなんとかやって欲しいと思うが、このシミュレーションを行うことは、すごく難しい気がしている。仮説に基づいたシミュレーションであれば答えは出そうな気がするが、その仮説を地元が実行できるのかはまた別の話になる。例えばJR東海と良い仮説を立ててもらふことや、飯田線の活用の他に長野市まで行くようならJR東日本と良好な関係を持っていただくといったことも含めながらいろいろと取り組んでもらえると嬉しいと思う。

平林局長：今のお話は2ステップ目・3ステップ目の話になるかと思う。まずは現状認識を行いたい。良い話も厳しい話も出てくると思うが、まずはそこに取り組みたいと考えている。今のお話の部分についても先々を見越して組み込んでいきたいと思う。

連合長：県協議会や知事と社長、JR東海社長とのトップ会談の時期はおおよそでも決まっていないということか。

平林局長：まだ公開の会議で言える状況ではないため、今は言えない状況。おおよその時期は決まっている。

豊丘村長：7月15日の新聞で、JR東海の丹羽社長が、赤石山脈のトンネルは、10年前とは異なる様相も呈しているということを話していた。なかなか早々十年では開通しないのかなということかと感じた。

連合長：新聞を読んでの感想ということ。

(2) 長野県宿泊税を活用した定期周遊バスについて 【飯田市産業経済部 浅野参事】～資料 No.2～ 長野県宿泊税を活用した定期周遊バスについて資料を基に説明がなされた。

ア 目的

JR中央本線にアクセスが良好な木曽路は、近年多くのインバウンド客が訪れているが、同エリアから飯田市南信州地域に直接アクセスできる公共交通はなく、マイカーやレンタカー利用に限られている。こうした課題の解決に向けて、長野県の宿泊税を活用し、主要な交通結節点と馬籠宿、昼神温泉、天竜峡を結ぶ定期周遊バスを整備し、観光誘客のための二次交通の充実を図るとともに、あわせて伊那路・木曽路の連携による広域的な観光コンテンツの開発と情報発信を強化していく。

イ 定期周遊バスの概要

経路：中津川駅から飯田駅間を1日2往復。

運行期間：令和8年9月1日から3月31日

※12月1日から3月19日は運休。

運行期間中は毎日運行

料金：片道1,500円

定期運行の情報を Google マップ検索でヒットするように情報発信を行い、インバウンド客から見た南信州地域へのアクセスの向上を図る。

ウ 事業実施スキーム

飯田市が事業実施主体となり、事業全体を南信州観光公社に委託する。公社は、本事業の情報発信や定期周遊バスを活用した旅行商品の造成、事業の運営管理を行い、バスの運行自体は南信州広域タクシーアップルキャブに再委託し、バスの運行に必要な許可はアップルキャブが取得する。

本事業は、広域観光の促進を目的とするもののため、長野県の宿泊税を活用した補助事業、観光目的のバス路線等による二次交通の確保支援事業補助金を活用する。また、バスの運行経路上の阿智村から負担金も得て、連携協働して取り組んでいく。飯田市の負担分は、長野県から飯田市に交付される長野県宿泊税市町村交付金を充当する。長野県の宿泊税は、導入から 3 年で制度の見直しが検討されているため、これを踏まえて、見直しまでの間を定期周遊バスの実証運行期間と位置づけ、期間中の状況を分析し、その後の実証運行可否を判断する。

エ 今後の予定

8 月 4 日（火）の午前中に、バスの乗車体験会を実施する。関係機関、旅館組合や各種観光事業者などに、実際のバスルートを体験していただき、具体的な活用方法を検討いただく機会となればと考えている。また、当日の報道を通してバスの周知や利用促進を図っていく。

運行初日の 9 月 1 日（火）には出発式典を開催予定。

オ その他

当該交通手段を利用して実際に観光客が飯田市・南信州地域を訪れることが重要になってくる。このため、定期周遊バスを活かした旅行商品の造成や周知広報とバスの利用の促進とあわせて、宿泊、飲食、各種体験アクティビティなどを提供する事業者と連携し、既存のコンテンツを面的につなぐことで、観光の目的地化を図っていきたいと考えている。特にインバウンド向けの周知については、長野市でインバウンド誘客事業を行っている株式会社まちノベイトと南信州観光公社が連携し、海外向けのプロモーションによるデステーション化も図りたいと考えている。

リニア開通に向けて、中津川、木曽、南信州エリアが観光客にとって一層楽しめるエリアとして認知され、多くの観光客が訪れるように、広域での観光振興を図っていく。バスを活用した観光振興のアイデアや要望等があれば、飯田市のツーリズム振興室までお寄せいただきたい。

（主な意見等）

泰阜村長：要望になるが、時刻表を見ると中津川駅から飯田駅の方に向かう場合は、天竜峡駅へ止まるようになっているが、飯田駅から中津川駅に向かう場合は天竜峡駅に止まらないようになっているかと思う。天竜ライン下りを想定すると、天竜峡駅に停まり、ライン下りをしてまた天竜峡駅から帰るというような想定もできていると思っている。結果を踏まえてだと思うが、またそういったことの実証もお願いしたい。

浅野参事：今回、中津川駅から飯田駅の方向のみ天竜峡駅に停まることとしたのは、まさに昼神温泉で一泊した観光客が、翌日に例えば天竜ライン下りなどを体験するというような流れを想定して、このようなルートを設定している。ご指摘の通り、例えば飯田駅から天竜ライン下りを経験して、馬籠宿の方へ向かうというルートも想定されるため、実証実験の期間の動向なども踏まえて検討したい。

連合長：このような内容で実証運行を行うので、ご承知おきいただきたい。また先ほど説明にあったように、この路線を活用して何か観光商品を作っていこうということで、周辺の町村の方々からアイデアがあれば是非お寄せいただきたいと思う。

(3) 産業振興と人材育成の拠点（エス・バード）の管理運営状況について

【南信州・飯田産業センター小室事務局長】～資料 No.3～

産業振興と人材育成の拠点（エス・バード）の運営状況について資料を基に説明がなされた。

ア 管理業務の実施状況

基本協定に基づき、施設管理 8 名、受付業務 5 名、防火管理者 1 名の体制により環境法令を遵守して適正な施設管理運営を行った。

イ エス・バードの利用状況

令和 7 年度の施設利用件数は 949 件で、利用者数は共創の場を含めて 4 万 7,270 人。前年度と比較してやや減少した一方で、インキュベート室の利用は、全 10 室のうち 9 室が入居となり、令和 6 年度の 6 室入居から増加している。現在は 10 室全て満室という状況

施設の利用人数は減少したが、新たな有料利用の確保の結果、施設利用料使用料収入は 2,618 万円余と前年並みの収入を維持した。また、無料減免利用の割合も 25.5%で、令和 6 年度の 34%から減少したため、収益の向上につながっているものと考えられる。

ウ 管理に係る経費の収支状況

管理経費の収支では、人件費や光熱費の高騰が続く厳しい環境という状況だが、指定管理料及び施設利用料収入により適切な管理運営を行っている。令和元年のオープン以来据え置いてきた貸館事業の利用料の見直しを行い、令和 9 年 4 月利用分から利用料を改定することとした。収支の状況について、経常収益は 2 億 7,303 万円で、前年度に比べて 3,540 万円ほど増加。主な原因は、受取補助金額が 4,400 万円余で令和 6 年度に比べて 2,000 万円ほど増加したこと。また施設利用料収入が 9,697 万円で、令和 6 年度に比べて 740 万円ほど増加という結果だった。全体として収益は増加している。経常費用については 2 億 8,919 万円で令和 6 年度に比べて 3,600 万円ほど増加した。主な要因としては施設、設備の修繕に伴う修繕費用の増加で、特に工業技術試験研究所において修繕費がかさんだ。また人件費、減価償却費も増加しており、経常費用を押し上げる結果となっている。この結果、当期収支差額は 1,616 万円のマイナスとなったが、収支決算額は 377 万円余の当期繰越額を残すという結果となった。

エ その他

固定資産備品は年に 1 回確認を実施している。予約システムの適切な運用管理、利用者への注意喚起を徹底した結果、施設、設備に関する大きなトラブルや苦情はなかった。また、個人情報基本協定に基づき、施設管理を徹底し、適切に保管している。利用者アンケートも、ここ数年継続して実施しており、意見は施設運営、サービス向上につなげている。

オ 令和 7 年度の主な取組

令和 7 年度の主な取組のうち、信州大学との共同研究講座の次世代空モビリティシステム共同研究講座は、これまでに 37 名が修了し、多くの修了生が航空機関連企業や県内企業へ就職しており、地域を支える人材を輩出している。また、小学生を対象とした飛行機の教室等を開催し、将来の地域産業を担う人材の育成にも取り組んでいる。ランドスケープ・プランニング共同研究講座では、令和 7 年度で 3 名が修了し、地域と連

携した研究成果をエス・バードなどで発表している。両講座とも企業版ふるさと納税を活用したコンソーシアムによる支援により安定した経営を行っている。飯田工業技術試験研究所については、利用件数は 690 件で前年度より減少をしているが、令和 7 年度の年度途中に利用料の改定を行った結果、地域外利用の増加もあり、利用料収入が約 4,609 万円となり、前年度に比べて 20%増収した。環境試験機器 5 台を活用しながら試験オペレーターの育成や国際基準の認定試験場としての体制強化をこれからも継続し、高度な試験サービスの提供に努めている。その他の取り組みとして、次世代空モビリティ分野への取組では、福島ロボットテストフィールドと連携し、NEDO が行っている ReAmo プロジェクトに参加し、次世代空モビリティの性能評価手法の開発を進めた。地域資源を活用した商品開発では、販路拡大を目的としたシンポジウムやセミナーを開催し、マーケティング視点の重要性を理解し、今後の可能性を実感する機会を提供。また、新産業の創出に向けた取り組みには、130 社を超える企業が参画している。ネスク飯田を中心に、企業が連携して新規受注や共同製品開発など地域企業の競争力強化に向けた取り組みを行ったことで、技術交流による新たな知見の共有を推進した。

(主な意見等)

阿智村長：南信州・飯田産業センターの取り組みは全国的にも少ないので、とても素晴らしいことだと思う。知事を始め県の方でも航空宇宙産業を前面に出していくという表明をしている。以前から航空宇宙産業に熱心に取り組んでいるが、意外に住民で知らない方も多いと思う。既にシンポジウムなど取り組みを行ってくれているが、今回の知事の表明を機に、航空宇宙産業はこんなにすごいことをやっているんだということが住民がわかるような工夫がないかなと思ってずっと考えていた。さらに頑張っていたきたいと思う。

(4)「介護のしごと相談会」の開催報告について

【乾地域医療福祉連携課長】～資料 No.4～

「介護のしごと相談会」の開催報告について資料を基に説明がなされた。

ア 開催概要

日時：令和 8 年 6 月 27 日（土） ①10 時～12 時 ②13 時～15 時

会場：エス・バード A 棟 2 階 ホール

出展ブース：24（事業所 22、協力団体 2）

来場者：21 人（うち 1 名高校生）

相談のべ件数：44 件（1 人あたりの相談件数は平均 2.1 件）

イ 来場者アンケートの結果

来場者 21 人のうち 15 人から回答を得た。

参加者の年代は、50 代、60 代が約半数を占めていた。10 代の参加者が 1 人。

居住地は、飯田市と群北部が約半数ずつだった。また、郡外で東京都からの来場者が 1 人だった。

来場のきっかけは、前回と同様に紹介が最も多い結果となった。今回はハローワークで来庁者に個別の案内をお願いしたほか、これまでチラシの送付のみだった各高校を訪問して案内をした。

来場目的については、就職相談、興味関心、転職相談など各項目がほぼ均等に分布している。

感想としてはマイナス意見はなく、満足とやや満足が全体を占めていた。また、自由記述欄では、事業所の丁寧な対応に対して、多くの高評価が寄せられている。

ウ 今後の予定

9月上旬に相談者の就職状況を把握するための事後調査を実施。

今年度第2回目の相談会を12月19日に予定。

(5) 飯田広域消防から

【中本消防次長兼警防課長】～資料No.6～

ア 令和8年上半期「消防統計」の概要

令和8年上半期の概要としては、火災件数が大幅に増加した一方で、救急及び救助の出動件数は前年同期を下回る結果となった。

(7) 火災

上半期中の火災件数：56件（前年同期比24件の増）

前年同期の32件と比較して大幅な増加となった。また、直近5年間に於いて最多の件数だった。火災種別については、建物火災が17件（前年比3件の増）、屋外での火の取り扱いに起因する火災29件（前年比13件の増）が主な種別となっている。また、出火原因はたき火の18件が1位となっており、屋外での不適切な火の取り扱いが全体の件数を押し上げる原因となっている。

火災による死者は住宅火災で1人で、負傷者は4人だった。また、8件の火災において、住宅用火災警報器の設置状況を調査した結果、設置されていた件数は3件であり、未設置の住宅への普及啓発活動が課題である。

(4) 救急

出動件数：3,780件（前年同期比460件の減）

搬送人員：3,756人（前年同期比470人の減）

1日あたりの平均出動件数は21件。

搬送人員のうち65歳以上の高齢者が占める割合は73.1%で、全国平均の63.1%を大きく上回る水準が続いている。一方で、入院を必要としない軽症者の割合は40.7%と低く抑えられている。住民の救急車の適正利用への理解が進んでいるものと捉えている。

救命講習の受講者は2,562人で前年同期比291人の増加。また、上半期に発生した心肺停止症例90件のうち、約7割に当たる64件で、現場に居合わせた市民による心肺蘇生が行われ、結果として2人が社会復帰を果たしている。

(ウ) 救助

出動件数：45件（前年同期比4件の減）

救助者：33人（前年同期比10人の減）

事故種別は交通事故が28件で最も多く前年同期比で8件の増加となっているが、交通事故以外の種別はおおむね減少傾向にある。期間中のヘリコプターとの連携活動はなかった。

飯田広域消防本部としては、令和8年上半期に著しく増加したたき火や屋外での火の取扱いに関する注意喚起及び住宅用火災警報器の設置・更新率の向上に向けた取組をさらに強化する。また、多発する交通事故に対する迅速な救助体制の確保と、高い水準にある高齢者救急への適切な対応について、下半期も引き続き取り組んでいく。

イ 熱中症疑いによる救急搬送の状況

(7) 搬送人員

25 人（昨年同時期と比較して 26 件の減）

調査期間は、令和 8 年 5 月 1 日から 7 月 13 日までの期間。

(4) 搬送者の属性と発生場所の傾向

65 歳以上の高齢者が 18 人で、全体の約 7 割を占めており、依然として高齢者の搬送割合が高い状況が続いている。また、10 歳代が 2 人で前年比プラス 2 人となっている他は各年代とも前年同期を下回っている。

発生場所の傾向としては、屋内が 6 人で屋外が 19 人となっており、屋外の発生が大部分を占めている。前年同時期との比較では、特に屋内での発生が 21 人減少していることから、室内でのエアコンの適切な利用や熱中症対策が一定の効果をj得ていると認識している。

(7) 病院収容時の傷病程度

軽症 18 人、中等症 5 人、重症 1 人、死亡 1 人。

本格的な夏を迎え、さらに気温の上昇が懸念されることから、広報車や各種媒体を通じて住民への迅速な熱中症予防の啓発活動を強化するとともに、救急事業を万全の体制へ備えていく。

ウ 飯田・木曽消防指令センターの運用状況について

出動件数の減少により、受付件数についても減少している状況。指令センター運用開始前と後で大きく変化している状況はない。

指令センターの視察状況は 7 月 3 日までで 176 人の視察・見学があった。

共同運用の成果としては、通信指令員の常駐体制の確保による複数事案への対応強化、整備費用の大幅な削減が挙げられる。また、運用初期の両消防本部の運用の違いに対する対応や地理不案内事案に対する対応についても順次改善に向けて対応を進めている。

運用開始後に大きな通信トラブルなどなくおおむね順調に推移しており、今後は出動データの蓄積・分析を行い、更なる出動時間の短縮を図るとともに大規模災害を想定した総合応援体制の強化に努める。

(6) その他

ア 南信州いいむす 21 登録判定

以下いずれも承認。

有限会社代田工業 81pt ★×9（登録）

飯田広域消防本部・飯田消防署 92pt ★×10（更新）

イ 後援依頼

以下いずれも承認。

(7) 第 52 回全日本天竜川カヌー競技大会

催事名：第 52 回全日本天竜川カヌー競技大会

主催団体：長野県カヌー協会、高森町

開催日時：令和8年8月23日（日）8時から15時まで

会場：天竜川万年橋付近から弁天港付近

主会場は、山吹ほたるパーク

後援団体：公益社団法人日本カヌー連盟、国土交通省天竜川上流河川事務所、信濃毎日新聞社ほか

(i) 第9回伊那民俗研究集会「子どもの民俗」

催事名：第9回伊那民俗研究集会「子どもの民俗」

主催団体：柳田國男記念伊那民俗学研究所、南信州民俗芸能継承推進協議会、飯田市美術博物館

開催日時：令和8年9月23日（水・祝）10時30分から16時40分まで

会場：飯田市美術博物館講堂

後援団体：長野県南信州地域振興局、南信州広域連合、伊那谷研究団体協議会

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

【大日方局長】～資料No.7～

長野県のツキノワグマ目撃及び人身被害の状況について資料を基に説明がなされた。

県林務部のデータによると、クマの目撃情報は当管内は北アルプス、松本、木曽と比較すると少ないが、前年に比べると若干多く生活圏に出てきている状況。4月3日に長野県と飯田市、飯伊の猟友会連合会の合同で研修会を開催して、各市町村の職員からも参加があった。クマの出没の状況等を踏まえ、二点の依頼があった。

一点目、クマが生活圏に出没しないように、廃棄野菜や生ごみの管理などの周知を引き続きお願いしたい。

二点目、クマ出没時の対応マニュアルの整備をお願いしたい。対応マニュアルについては、南信州地域振興局管内では飯田市と豊丘村以外はまだ整備中、検討中という状況のため、マニュアルに従って、的確に対応ができるように早急な整備を依頼。地域振興局でも助言等を行う。

(2) 飯田建設事務所【折井所長】

～資料No.8～

木曽町での南部国道連絡会には多くの首長にご出席いただき感謝申し上げます。

建設関係の団体が作っているチラシで職場において、熱中症を見つける、判断する、対処するというわかりやすいものがあったため参考に配布する。熱中症になるかどうかの判断基準の中で暑さ指数があるが、建設現場では現場で計測している場合もある。それができないところも当然あるため、環境省の熱中症予防情報サイトで、地域別にその質がわかるようになっているため、あわせて情報提供する。

(3) 飯田保健福祉事務所

特になし。

5 当面の日程について

8月20日（木）

広域連合会議（県合同庁舎講堂）

8月25日（火）10時00分～ 議会第2回臨時会及び全員協議会（はにかむべーす多目的ホール）

6 その他

7 閉会…15時55分